資料３

活動主体の「課題」と他の活動主体の「長所」の組み合わせによる「新しい協働」　【課題 × 長所 ＝ 解決可能性】のイメージ

町会・自治会

加藤委員、武田委員、美玉委員

〔課題〕
- 非会員からは何をしているのかわからない
- 役員、担い手が高齢化している
- 新しい活動を担える人材がいない（集まらない）
- 若い世代、新住民が入らない

〔長所〕
- 誰もが会員になれる
- 地域の課題に幅広く対応できる
- 地域の情報が入ってくる
- 情報の伝達手段を持っている
- 活動の拠点を持っている
- 住民から信頼されている
- 行政から信頼されている
- 地域活動に使える資源が豊富である

地区区民館・同運営委員会

高原委員、区職員

〔課題〕
- 館事業の開催、従事者の雇用など、運営委員会の負担が大きい
- 区職員との業務分担が不明確
- 役員、担い手が高齢化している
- 活動が硬直化している
- 区職員が地縁団体や地域のＮＰＯ・ボランティア団体の活動状況を把握していない

〔長所〕
- 様々な年代が活動できる拠点である
- 多様な地域住民が利用できる拠点として機能できる
- 事業実施に必要な資金がある
- 様々な団体の代表者が関わっている
- 他の団体の人と顔の見える関係が築ける

区

区職員

〔課題〕
- 縦割りで、情報のプラットフォームがない
- 職員は区民とうまくつき合うノウハウを獲得できる機会がない
- 地域に出かけ、区民と対話することが、仕事として位置づけられていない
- 協働に対する意識が低い

〔長所〕
- 地域活動の支援に使える資源が豊富
- 豊富な広報手段を持っている
- 公的機関として信頼性が高い
- 活動団体同士の交流ネットワークがある
- 人的リソースが豊富

事業者（企業・商店会など）

広石委員、田中委員

〔課題〕
- 担い手が高齢化し、地域活動への参加者が減っている
- 社会貢献活動と営利活動との区別で誤解を生じる
- 事業者数、従業者数が減っている

〔長所〕
- 行動に移す（意思決定）のが早い
- 地域に密着している
- 平日の昼間でも地域活動等に参加できる
- 事業者ごとに専門性を持っている
- 店内で地域情報を発信できる
- 昼間開いているので安心
- 学童の駆け込み場所となる
- お祭り等では、様々な団体とコラボができる

ＮＰＯ・ボランティア団体

三谷委員、村木委員、吉田委員

〔課題〕
- 広報手段が乏しく、活動が伝わらない
- 活動資金が乏しい、助成金に依存している
- 活動拠点がない
- 団体の目的・活動がわかりにくく、信頼性がない
- 地縁団体からは認識しにくい

〔長所〕
- 課題・取り組むテーマが明確
- 専門性を持った多種・多様な団体（人材）がいる
- 同じ目的を共有しながら活動できる
- 自由な発想で柔軟に活動ができる
- 他の団体の活動に関わっている方が多い

学校・学術機関

佐藤委員、尾原委員

〔課題〕
- 管理運営が閉鎖的である
- ＰＴＡ活動・学校での活動が一部の人に負担が偏りっている
- 子どもたちが忙しく、地域活動に参加できない
- 様々な事件があり、子どもがいない方には学校に関わる機会がない

〔長所〕
- 非常時（災害時）に頼れる場所である
- 悩みや苦労を共有できる同世代の人たちとの接点がある
- 子どもを通じて地域と接点を持てる
- 豊富な設備を有し、区内全域に広がっている
- 公共性が高く、他の活動主体が関わりやすい